

我が国の農林水産業に活路を開く 10次産業化の展開について

【担当省庁】農林水産省

京都の強みを活かす農業ビジネスづくりのための「6次産業化ネットワーク活動交付金」事業への採択

◆ 京都府では、高いブランド力をもつ農畜水産品の新たな価値を創造する6次産業（農業ビジネス）を創出するため、新たなネットワークの構築や事業体の設立に取り組むこととしており、「6次産業化ネットワーク活動交付金」事業に、京都府の事業を採択していただきたい。

- 農業者、商工業者、食品加工業者、金融機関など多様な事業者が目標を共有し、新商品開発や販路開拓に向けた活動を行うネットワークの構築
- 京都丹後地域の魅力ある地域資源を活用するため、京都府農業公園「丹後あじわいの郷」を拠点として、丹後の農畜水産業の6次産業化と食を支える人材育成（4次産業）を一体的に行う「10次産業化事業体」の設立

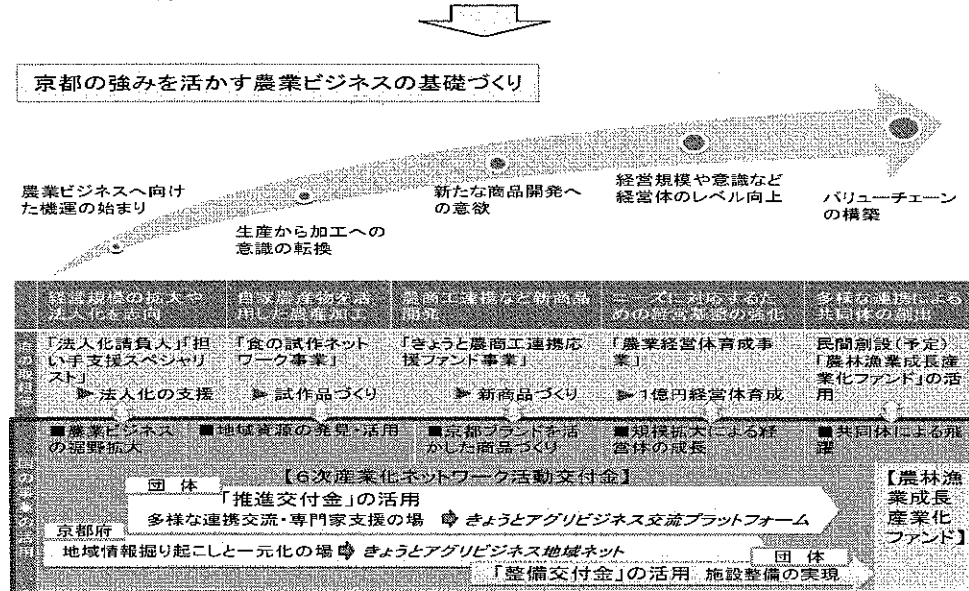
<農林水産省の概算要求>

◎6次産業化ネットワーク活動交付金 29.6億円

農山漁村の所得や雇用の増大、地域活力の向上を図るため、地域の創意工夫を活かしながら、多様な事業者が参画するネットワークの構築に向けた推進会議の開催、プロジェクトの調査・検討、プロジェクトリーダーの育成、新商品開発・販路開拓、農林水産物の加工・販売施設の整備等に対して支援する。

現状・課題等

◎ 京都府では、連携・協働で多様な知恵や技術などを活かし、京都ブランドの高いニーズに応えるものづくりを行う経営体の育成のため、試作品や新商品づくりなど農業ビジネスの発展段階に応じた取組で経営体を支援しているが、市場に応えるものづくりに繋がっていない。



- ◎ 丹後には優れた食材が多いが、少量多品目であること、ビジネス化の人材が不足していることから、魅力ある地域資源を生かしきれておらず、新たなビジネス展開が必要。



京都府と地元農畜水産経営者、関連企業・団体、大学で構成する「10次産業化事業戦略協議会」を設置

【取組内容】

- ・丹後地域の6次産業化ネットワークの拠点となる事業体のあり方など、全体設計、経営戦略を樹立する。
- ・丹後の食材を活用して、
 - 6次産業化をめざす次世代農業経営者の育成（丹後農業実践型学舎）
 - 6次産業化をめざす「漁業経営者」（海の民学舎）
 - 地域食材を活かしたスローフード人材の育成（食の王国学舎）
 に取り組む。
- ・一流の料理人、加工関連企業が参画して、地域色豊かな加工商品、料理の開発・販売実証に取り組む。
- ・丹後地域の農畜水産業経営の6次産業化と地域が支える次世代人材育成の取組を地域全体に拡大するため、府農業研究所と大学が連携協定を締結し、調査・実証を展開する。

10次産業化の展開イメージ



【京都府の担当部局】

農林水産部 農村振興課 075-414-4906
 担い手支援課 075-414-4902